

仏事を学ぶ 第九回



お経の意味⑥

前回より、当寺においても通夜の際などによくお唱えしている『修証義』についてご一緒に学んでいます。今回は「懺悔による清浄なる心境に至ることが仏教徒としての自覚ある生活の入口となる」ことについて説かれている、第二章「懺悔滅罪」について学びましょう。

【修証義第二章 懺悔滅罪 原文】

仏祖憐みの余り広大の慈門を開き置けり。是れ一切衆生を証入せしめんが為なり。人天誰か入らざらん。彼の三時の悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて軽受せしむ。又滅罪清浄ならしむるなり。然あれば、誠心を専らにして前仏に懺悔すべし。恣麼するとき前仏懺悔の功德力を拯いて清浄ならしむ。此功德能く無礙の淨信精進を生長せしむるなり。淨信一現するとき、自他同じく転ぜられるなり、其利益普く情非情に蒙らるしむ。其大旨は、願わくは我れ設い過去の悪業多く重なりて障道の因縁ありとも、仏道に因りて得道せりし諸仏諸祖我を愍みて業累を解脱せしめ、学道障り無からしめ、其功德法門普く無尽法界に充滿弥綸せらん、哀みを我に分布すべし、仏祖の往昔は吾等なり、吾等が当来は仏祖ならん。我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋癡、從身口意之所生、一切我今皆懺悔、是の如く懺悔すれば必ず仏祖の冥助あるなり、心念身儀発露白仏すべし、発露の力罪根をして銷殞せしむるなり。

【現代語訳】

仏や祖師方は、私たちの愚かさや悲しみに共鳴しているのです、全ての人を包む慈しみの門を開いて待っていてくださるのです。それ不思議な助力があります。心の底から悟りを思い、体では全身で仏を礼拝し、口には知らず知らずに声となって仏に向かつて申し上げるのです。にじみ出る清らかさの力が罪の根源をなす自我を消し鎮めてくださるのです。

行事予告

国際ヨガデーイベント

「キャンドルライト寺ヨーガ」

国際ヨガデー（六月二十一日）にちなみ、キャンドルの灯が揺れる中、ヨーガ・坐禅を体験できる行事を開催します。日常を離れ、ご自身の身体と心に向き合う静かな時間を過ごしてみませんか？

■日時：令和三年六月十八日（金）

午後七時～九時（午後六時四十五分受付開始）

■場所：大安寺本堂 ■定員：二十名（先着順）

■講師：中島敬子（ヨーガ）・長岡俊成（坐禅）

■参加費：五百円（キャンドル代含む／当日受付時に支払い）

■持ち物：ヨガマット（バスタオル可）／動きやすい服装で

■申し込み：左の二次元コードをスマートフォンで読み取り、申し込みフォームに必要事項を入力の上

送信してください。



■備考：新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては中止の可能性がります。なお、マスクの着用、受付時の検温にご協力ください。



は全ての人々を悟りに摂取しなくてはならないのです。人間界天上界等六道に沈む迷いの人々は必ず入らなければならぬからです。（なぜなら悟りとは全ての生存の本質だからです）先に述べた三段階の悪しき心と行為の影響力は、①自分の責任だからごまかしようはありません。②しかし、仏に照らされて懺悔して謙虚になる時、心も影響力も身軽になります。③更に罪の心と愚かさは無我の智慧によって包まれて清らかになるのです。

以上のようなわけですから、清浄無我な純心になりきって、仏の前に、仏に照らされて懺悔しなさい。このようにする時、仏に共鳴して懺悔する力の功德が、私を救い取り、包み込んで無我にしてくれるのです。その功德は必ず、囚われのない仏法への信心をたゆまず育ててくれるのです。無我を信じられる力が一度始動し始めると自分と人々が同時に印転されて行くのです。その利益は、全て心あるもの心のない命まで包み込んでくださるのです。その大いなる心は、『願うところは、私は、たとい過去の間違つた心と行いと習慣が積み重なって求道を妨げる縁になっているとしても、仏法によって悟りを得た仏方と祖師方よ、どうぞ愚かな私を哀れんで愚かな行為の繰り返しから解放させてください、仏法修行の障害を取り除きたまえ。その功德の門は、全ての人々に無限の真理の世界に満たされ、行き渡っている慈悲の哀れみを私のために与えたまえ。仏や祖師方ももとは迷いの私たちと同じでありました。私達も未来は仏祖方の悟りと同じで無ければなりません』。

私がかつて作った所の多くの悪しき行為の縁は、皆、初めを知らない程に深い貪りと、怒りと、愚かさによります。それは私の体と口と心で作りましたものです。それは全てを私は今ごとく懺悔いたします。このように懺悔すれば、必ず「仏と祖師方の

大安寺花まつり点描



ルンビニー（北インド・現在はネパールの領内）の花園でお釈迦さまがお生まれになったことから、「花まつり」と呼ばれるようになりました。



保育園の子どもたちがお散歩がてらお参りに。来年こそは、コロナ禍が収束し、マルシェやお茶会、奉納パフォーマンスなどが開催できますように！



風は強かったもののお天気に恵まれ、位牌堂・お墓参りも兼ねて、多くのお参りの方が花まつりにお越しくださいました。



伝説では、お釈迦さまはお生まれになってすぐに七歩進み、右手で天を、左手で地を指差し「天上天下唯我独尊」と宣言されたといわれています。この言葉は「人は誰もが、かけがえのない命を生きている」という、仏教のもつ人間尊重の精神を端的にあらわしています。